

西洋建築史
試験問題

中島 智章

1. 次の問いに答えて、要求されたイラストを描け。 配点: 10点

ペンデンティヴ・ドームを備えた教会堂の名称を三つ挙げよ。また、ペンデンティヴ・ドームの模式図を、どの部分がペンデンティヴなのかがよく分かるように描き、そこを斜線で示せ。

建造物名称 1)
3)

2)

配点: 3×2 点 = 6点

ペンデンティヴ・ドーム模式図

配点: イラスト3点(上 = 3点、中 = 2点、下 = 1点、なし = 0点)
ペンデンティヴ図示 1点

2.次の文章中の空欄を適切に埋める名詞を解答欄に記入せよ。 配点:30問×3点=90点

人名はフルネームで記すこと。名字のみは1点。個人名のみは0点。アルファベット表記は0点。

- 1) 現存する最古の建築書『建築十書』を著した(a)は、その第3書と第4書で宗教建築について語り、その平面形式、立面形式、そして神殿を取り巻く円柱の三つの様式について詳説している。そのなかで彼は円柱の比例を人体比例にたとえており、(b)式は男性、(c)式は婦人、(d)式は乙女のプロポーションを表しているという。 a) b) c) d)
- 2) ローマ人は小さな集落から大帝国へと軍事的に領土を拡大していく過程で、多くの植民都市を建設していった。(a)(現在のパリ)など、現在の多くのヨーロッパの都市は軍事都市を起源とする場合が多い。これらの都市は矩形の城壁を備え、南北に延びる街路(b)と東西に延びる街路(c)を組み合わせる格子状に街路を巡らしたものだ。 a) b) c)
- 3) (a)建築は12世紀中頃にフランス王国の都、パリの近郊で生まれた。1144年に完成した(b)修道院の新しい聖堂を最初の(a)建築とみなすのが通例で、当時の修道院長(c)が(a)建築の生みの親とされる。当時の人々はこの新しいデザインの建築を「(a)」とは呼ばず、単純に「新しい建築」とか、あるいは地名から「フランスの建築」と呼んでいた。 a) b) c)
- 4) 都市や軍事拠点を高い城壁で囲んで防御する垂直式防御の時代は火器の組織的な使用が始まるとともに終わりを告げ、16世紀初頭に(a)式築城術という新たな拠点防御法がイタリアで考案された。多角形平面の角に(a)(日)=(b)(英)が突き出していて、これにより十字砲火を可能にしている。その間にはさらに(c)堡が設けられた。 a) b) c)
- 5) 様々な教養に富んだ元祖「万能の人」(a)は1452年に『建築論』を著し、その第1書の中で、建築の基本要素として次の六つを挙げた。すなわち、地域・敷地、床面、分割、(b)、覆い、(c)である。この中に円柱は含まれておらず、彼にとっては列柱ですら(b)の一種にすぎない。まさに西洋建築の構法の本質を見事に表現した理論である。 a) b) c)
- 6) マニエリスムの建築家(a)はパラッツォ・デイ・コンセルヴァトーリなどで、1階につき1オーダーという初期、盛期ルネサンスの常識を覆し、1階と2階をぶちぬいた巨大なオーダーを使用した。これを(b)オーダーという。一方、ローマの建築家(c)はパラッツォ・マッシモで、円柱をペアにして列柱を形成する手法を初めて用いた。これを(d)柱という。 a) b) c) d)
- 7) (a)の設計を元にデッラ・ポルタが完成させた、ローマの(b)聖堂のファサードは(b)形と呼ばれ、以後、教会堂のファサードの典型として全ヨーロッパさらにはアメリカ大陸にまで広まった。同じローマ市内でも、サン・ピエトロ使徒座聖堂ファサードの建築家(c)によるサンタ・スザンナ聖堂が後に続き、(b)形ファサードにダイナミックな彩りを与えた。 a) b) c)
- 8) 太陽王(a)世の権勢を象徴する(b)宮殿は、先王の小さな狩の館を核として、国王付首席建築家(c)が大宮殿へと発展させたものである。1670年に彼が亡くなった後はフランスワ・ドルベがその計画を実行に移していったが、1678年以降の鏡の間の造営からは(d)が担当し、以後、彼が(b)の造営事業を統括していくことになる。 a) b) c) d)
- 9) 18世紀には古代ギリシア建築の姿が考古学的に明らかになっていき、そこに着想を求めた(a)建築が新古典主義建築の重要な一派として、とりわけドイツ語圏諸国で盛んに建てられていった。ベルリンのアルテス・ムゼウム、ノイエ・ヴァッヒェなどを設計した(b)や、ミュンヘンのグリプトテーク、プロピュレリアなどを設計した(c)が代表的建築家である。 a) b) c)